

Title	『デュランデ城』における風景描写のダイクシス（その3）
Author(s)	瀧田, 恵巳
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2019 P.1-P.10
Issue Date	2020-07-31
Text Version	publisher
URL	https://doi.org/10.18910/77021
DOI	10.18910/77021
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

『デュランデ城』における風景描写のダイクシス (その3)
瀧田恵巳

4.3.6. herüber

herüber には三つの分離前つづり用法の用例があり、これらはすべて風景描写の二つの条件 (①輝きや音響などを運動として表現する事例であること, ②遠景から近景へ, または近景から遠景への広範囲にわたる状況を描写する事例であること) に当てはまる。一方, 方向の目標側への Hier/Origo の導入については認められる場合とそうでない場合がある。

例(30)の herüber は鐘の音が響き渡る方向を示す風景描写と見なされる。この herüber の表す方向の目標側に Hier/Origo を担う登場人物がいれば, その人物が高台で鐘の音を聞いているという解釈が成り立つ。しかしこの場面は 4.3.5 で挙げた herein の例(28)に続く物語の冒頭部分で未だ人物は登場しておらず, またその直後にも登場していない。従って herein と同様に目標側には Hier/Origo を導入することはできない。そのうえ herüber に想定される高台という目標と herein が表す方向の目標の谷間との間にはずれがある。例(30)の herein と herüber が示す方向の目標側に知覚主体が想定されるとすれば, それは本論文で規定した Hier/Origo とはいえない。

それに対して他 2 例では, herüber の示す方向の目標側に既に登場人物が存在する。例(31)では, 谷間の自宅から森に入り山腹にある修道院に向う登場人物 sie の移動に伴い, 物語場面そのものも移動することから, この場面では登場人物 sie に Hier/Origo が導入されていることがわかる。これに続く herüber は月光に輝く窓のきらめきが渡ってくる方向を表し, その目標側に位置する sie と Hier/Origo のつながりは, sie がきらめく窓の光を眺めているという解釈を余儀なくさせる。さらに後に続くナイチンゲールの歌声や噴水のざわめきも知覚されているものと見なされ, その場に居合わせているかのような臨場感を与えている。例(32)の herüber は宮廷から舞踏会の音楽が中庭を超えて流れてくる方向を表し, この方向の目標側である屋敷の屋外には登場人物 er が存在する。従って Hier/Origo は登場人物 er に導入することができる。また例(31)と同様, 方向の目標側と Hier/Origo の結合による登場人物の知覚のイメージ, そしてその場に居合わせるような臨場感が認められる。この場面は屋外の描写を中心とし, それが正に er に知覚されるように描かれている。

(30)[=(28)] In der schönen Provence liegt ein Tal zwischen waldigen Bergen, die Trümmer des alten Schlosses Dürande sehen über die Wipfel in die Einsamkeit herein; von der andern Seite erblickt man weit unten die Türme der Stadt Marseille; wenn die Luft von Mittag kommt, klingen bei klarem Wetter die Glocken herüber, sonst hört man nichts von der Welt. (SD:3)

美しいプロヴァンス地方の緑ふかい山々にかこまれて, ひっそりとした谷間がある。そこからふり仰ぐと, 木々の梢をこえた高みに, デュランデ古城の廃墟がじっとこちらを見下ろしており, 目を転じてはるか下方を見晴らせば, 遠くにマルセイユの町の尖塔がかすんでいる。澄みきった日には, 南風によって鐘の音がひびいてくることもあるが, そのほかには, 世間の物音は何一つここに届くことはない。(176)

(31) Zögernd betrat sie nun den Wald und blieb immer wieder stehen und lauschte; es war alles so still, dass ihr graute in der großen Einsamkeit. So musste sie nun endlich doch weitergehen und zürnte heimlich im Herzen auf ihren Schatz, dass er sie in ihrer Not so zaghaft verlassen. Seitwärts im Tal aber lagen die Dörfer in tiefer Ruh. Sie kam am Schloss des Grafen Dürande vorbei, die Fenster leuchteten im

Mondschein herüber, im herrschaftlichen Garten schlugen die Nachtigallen und rauschten die Wasserkünste; [...] (SD:7-8)

ためらいながら、彼女は森へ入っていったが、何度も何度も立ちどまっては耳を澄ました。あたりはしんと静まりかえり、あまりの静けさに、彼女は恐ろしくなってしまった。だが、結局、先へ進むより仕方がない。こんなに困っている自分を見捨てた臆病な恋人に、彼女は内心腹を立てていた。だが、かたわらの谷間では、村々が深いやすらぎにつつまれ、デュランデ伯爵の城にさしかかると、月光をあびて幾多の窓がきらきらと輝き、高雅な庭園では小夜啼鳥がうたい、噴水があちこちでざわめいていた。(省略) (180)

(32) Er schwieg erschöpft, es war alles wieder still, nur die Tanzmusik von dem Balle schallte noch von fern über den Hof herüber, der Wind trieb große Schneeflocken schräg über die harte Erde, er war ganz verschneit. (SD:25)

疲れきって沈黙すると、あたりはふたたび静まりかえった。ただ遠くの舞踏会の音楽が、まだ中庭越しに流れてくるだけだった。風が大きな雪片を斜めに固い大地にたたきつけ、彼は全身雪にまみれていた。(202)

以上のように、herüber の三つの用例は全て風景描写の条件に当てはまるが、Hier/Origo の目標側への導入に極めて高い整合性が認められるのは2例である。

4.3.7. her-のまとめと hin-への導入

her-の全28例には、herauf 3例と herüber 3例の計6例の風景描写が見られる。この6例のうち4例においては、her-の示す方向の目標側に Hier/Origo が導入される登場人物が存在する。つまり風景描写の事例において、確かに目標側に Hier/Origo が導入される傾向はあるが、それは絶対的なものではない。また風景描写に該当しない22例に関しても、方向の目標側の登場人物に Hier/Origo が導入される例が12例あり、風景描写の事例ほどではないが、比較的高い割合を占める。このように her-の用例のうち風景描写の該当例はごく少数であり、Hier/Origo が方向の目標に導入される傾向は、風景描写に特化されたものではないといえる。

この傾向は hin- の用例についてもある程度当てはまる。風景描写の該当例はごく少数であり、hin の「話者から離れる方向」に想定される起点側には必ずしも Hier/Origo を担う登場人物が知覚主体として位置しているとは限らない。4.3.8以降、その具体的な事例を検証する。

4.3.8. hinab

hinab の全7例は分離前つづり用法で、風景描写に該当する例は無く、物の移動を表すケースが1例、人物の移動を表すケースが6例見られる。

次の物の移動を表す例(33)は、ハンカチが舞い下りる移動表現により、その空間的な広がりも表現されているが、輝きや音響などを運動として表現しているわけではない。hin-の示す方向の起点側には登場人物 Renate と Gabriele が位置していることから、方向の起点への Hier/Origo の導入には極めて高い整合性が認められる。

(33) Renate fasste sie lachend um den Leib, um sie zurückzuziehen. – „Herr Jesus!“ schrie sie da plötzlich auf, „ein fremder Mann, dort an der Mauer hin!“ – Gabriele ließ erschrocken ihr Tuch sinken, es flatterte in den Garten hinab. (SD:13)

笑いながらガブリエレを抱いて部屋の中へ連れ戻そうとしたレナーテは、突然、声を上げた。「大変！知らない男の人が、ほら、あそこの塀の所に！」—はっとしてガブリエレが手を下ろしたはずみに、ハンカチはひらひらと庭園に舞い下りていった。(188)

人物の移動方向を表す6例のうち、ある人物から離れる方向を表す例は計3例見られ、これらにおいては全て方向の起点側の人物に Hier/Origo を導入することができる。例(34)の hinab は、物語の中心人物の一人ともいえる er「伯爵」が sie（「家来たち」）を下方の中庭へ追いやる方向を表し、(35)の hinab は zwei der zuverlässigsten Leute「腹心の部下二名」をそこから下方にある村に向かわせる方向を表す。例(36)は、Hier/Origo を導入すべき登場人物が判然としなかった先述の herauf の例(12)に後続する。しかしこの hinab は、登場人物 Renald が朝靄の中を下りて行く移動方向を表し、その移動は方向の起点側にいる登場人物 Holzhauer「樵たち」によって見られたものとして描写される。従ってこの hinab については、Holzhauer が位置する方向の起点側に Hier/Origo を導入することができる。なお Ehlich(1985:254-255)によると、例(36)の冒頭の da には読者の転移を促す機能がある。この解釈を援用すると、この hinab は中心人物の交代にも関与している。それまで物語の筋は主として Renald を中心に展開していたが、この場面において Renald から一旦離れ、その後デュランデ城に戻る der Graf「伯爵」を中心に展開する。

(34) So trieb er sie in den Hof hinab, er selber half die Pforten, Luken und Fenster verrammen. (SD:37)

こういつて伯爵は、家来たちを中庭へ追いやると、みずから手を貸して、出入り口、覗き穴、窓などを閉鎖した。(214)

(35) Nun trat er rasch und verstört wieder zu den andern, zwei der zuverlässigsten Leute mussten sogleich bewaffnet nach dem Dorf hinab, um den Renald draußen aufzusuchen; [...] (SD:38)

伯爵は気もそぞろに、せかせかと家来の方にもどって来ると、腹心の部下二人を呼んで、ただちに武装して村に下りレナルトを捜すよう命じた。(省略) (215)

(36)[...] da sahen einige Holzhauer im Walde den wilden Jäger Renald mit seiner Büchse und dem Hunde eilig in die Morgenglut hinabsteigen; niemand wusste, wohin er sich gewendet. (SD:33)

二、三人の樵が森のなかで、猟銃を持ち犬を連れた恐ろしい猟師レナルトが、炎のような朝靄のなかへ足ばやに下りて行くのを見かけたが、誰もその行先は知らなかった。(210)

このように例(33)~(36)においては、hinab の示す方向の起点側の人物に Hier/Origo を導入することができる。それに対して次の例(37)では、hinab が示す König「国王」の移動方向の起点に登場人物が描かれておらず、さらにその移動はこの場面の中心的な登場人物 Renald に向かう。それを反映して日本語訳にも「下りてくる」という話者へ向かうダイクシス表現が用いられている。従ってこの hinab の示す方向については、方向の起点に Hier/Origo を導入することは極めて難しい。興味深いのは、例(36)と同様、ここでも da が用いられているという点である。

(37) Renald drängte sich mit klopfendem Herzen in die vorderste Reihe. [...] Da schallt' es auf einmal „Vive

le roi!“ durch die Lüfte, und im Garten, so weit das Auge reichte, begannen plötzlich alle Wasserkünste zu spielen, und mitten in dem Jubel, Rauschen und Funkeln schritt der König in einfachem Kleide langsam die breiten Marmorstufen hinab. [...] Jetzt gewahrte Renald mit einiger Verwirrung auch den Grafen Dürande unter dem Gefolge, [...] (SD:27-28)

レナルトは胸を高鳴らせて人ごみをかき分け、最前列へとつき進んだ。(中略)「王さま、ばんざい！」の音が突然ひびきわたり、目の及ぶかぎりの庭園のすべての噴水が、いっせいに水を噴き上げはじめた。そして、歓声とざわめきと輝きのただなかを、国王がくつろいだ身なりで、ゆっくりと大理石の石段を下りてきた。(中略)そのとき、レナルトはこの一行のなかに、デュランダ伯爵の姿をみとめ、狼狽した。(204)

例(38)の会話文中の hinab は発話現場における移動方向ではなく、会話内で語られる物語の登場人物 Prinzessin「王女」の移動方向を表すが、このとき物語の場面は Prinzessin の移動に伴って移行する。このことは、Prinzessin に場面の中心 Hier/Origo が導入されており、hinab の表す下への方向は、いわば Hier/Origo の移動方向であることを示している。同様に例(39)の動名詞 Hinabsteigen は、中心人物 Gabriele の進行中の動作を表す。こうした Hier/Origo は、それ自体が hinab の示す方向へ移動するため、方向の起点側に導入することはできない。

(38) „Einmal aber war die Prinzessin mitten in der Nacht aufgewacht, da hörte sie ein seltsames Sausen durch das ganze Haus. [...] so schlich sie leise, leise die stille Treppe hinab.“ (SD:12-13)

「ところが、あるとき、王女は真夜中に目をさました。奇妙なひゅうひゅうという音が城中に聞こえるのです。(中略)王女は息をこらして、ぬき足、さし足、ひっそりした階段を下りて行ったのです」—(186-187)

(39) Aber Gabriele hörte nicht darauf, zögernd und im Hinabsteigen noch immer zwischen den Zweigen hinausschauend, sagte sie wieder: [...] (SD:16)

ガブリエレは言うことを聞かず、ぐずぐずと木を下りながら、まだ枝ごしに向うのをぞいて、また言った。(省略) (191)

以上のように hinab の全 7 例はいずれも風景描写には該当しない。Hier/Origo の方向の起点側への導入は、(33)~(36)の 4 例には見られるが、他 3 例においては極めて困難である。例(37)では hinab の示す方向の起点側に Hier/Origo を導入すべき人物は認められず、例(38)と(39)の hinab は Hier/Origo が導入される登場人物のそのものの移動方向を表す。

4.3.9. hinunter

hinunter の唯一の例(40)において、hinunter は登場人物 er の移動方向を表す。その移動の起点側には登場人物が描かれておらず、また er の移動に伴い場面も中庭へ移行し、そこから見られる風景が描写される。つまりこの場面の中心は er であり、hinunter はいわば Hier/Origo の移動方向を表す。従ってこの hinunter の示す方向の起点には Hier/Origo は導入されえない。

(40) [...] er stieg langsam hinunter wie ins Grab. Im Hofe blickte er noch einmal zurück, die Fenster des Grafen waren noch erleuchtet, man sah ihn im Saale heftig auf und nieder gehen. (SD:24)

(省略) レナルトは、墓穴に降りて行くかのように、ゆっくりと階段を下った。中庭でもういちどふりかえると、伯爵の部屋の窓はまだ明るく、部屋のなかを激しく行きつもどりつしている彼の姿が見えた。(200)

4.3.10. hinauf

hinauf の全 3 例には風景描写に該当するものはなく、そのうちの一つは人物の移動、二つは人物の動作を表す。いずれも方向の起点側への Hier/Origo の導入は見られない。

例(41) の[≥(8)]という表示は、先述の herab の例(8)を含むことを示す。最初の文に fand er と綴られているように、この場面描写は er を中心としており、それに続く hinauf は er が階段を上っていく移動方向を表すが、この移動に伴い物語場面も階下から広間へ移行する。従ってこの場面において Hier/Origo は er に導入されており、hinauf は、先述の hinab の例(38)や(39)と同様、Hier/Origo の移動方向を示すことから、方向の起点側には Hier/Origo は導入されえない。

(41)[≥(8)] In seinem Hotel aber fand er alles wie ausgestorben, der Kammerdiener war vor Langeweile fest eingeschlafen, die jüngere Dienerschaft ihren Liebschaften nachgegangen, niemand hatte ihn so früh erwartet. Schauernd vor Frost, stieg er die breite, dämmernde Treppe hinauf, zwei tief herabgebrannte Kerzen beleuchteten zweifelhaft das vergoldete Schnitzwerk des alten Saales, es war so still, dass er den Zeiger der Schlossuhr langsam fortrücken und die Wetterfahnen im Winde sich drehen hörte. (SD:22)

だが屋敷につくと、すべては死に絶えたかのようにだった。侍従は退屈のあまり居眠っているし、若い召使たちはそれぞれの情事を追って出かけていた。彼がこんなに早く帰って来るとは誰も思わなかったのだ。寒さにふるえながら、彼は薄暗い階段をのぼって行った。今にも燃えつきそうな二本の蠟燭が、古びた広間の金箔の彫刻をぼんやりと照らしている。あまり静かなので、時計の針がゆっくりと進む音や、風見が風に回る音が聞こえるほどだ。(197-198)

それに対して、他 2 例については方向の起点側への Hier/Origo の導入は容易に行われる。例(42)の hinauf は動詞 rufen「呼ぶ」と結合し、人物 er が上方の窓辺に向かって呼びかける動作の方向を表す。この「呼びかける」動作の動作主である er は必然的に方向の起点側にあり、ここに Hier/Origo を導入することができる。例(43)の hinauf は、動詞 winken「合図をする」と結合する分離動詞の前つづりで、ここでは現在分詞の一部となるが、意味としては、バルコニーにいる人物 (Graf「伯爵」に瓜二つの存在) が下にいる人物 er 及び Graf に向かって合図する上への移動方向を表す。この場面では、合図を送られた Graf のいる起点側に Hier/Origo を導入することができる。

(42) Der Mond streifte soeben durch die vorüberfliegenden Wolken den Seitenflügel des Schlosses, da glaubte er in dem einen Fenster flüchtig Gabrielen zu erkennen; als er sich aber wandte, wurde es schnell geschlossen. [...] Da trat er unter das Fenster und rief leise aus tiefster Seele hinauf. [...] (SD:25)

そのときちょうど、流れ飛ぶ雲の間から月の光が漏れ、さっと館の側翼を照らした。その窓辺にガブリエレの姿がほの見えたような気がして、ふりむくと、窓はすばやく閉じられてしまった。

(中略) そこで、彼は、さきほどの窓の下に立ち、深い心をこめてそっと呼びかけた。(省略) (201)

(43) [...] da erblickte er mit Schaudern sich selbst dahinter, in seinen weißen Reitermantel tief gehüllt, Stirn und Gesicht von seinem Federbusch umflattert. Alle Blicke und Röhre zielten auf die stille Gestalt, doch

dem Grafen sträubte sich das Haar empor, denn die Blicke des furchtbaren Doppelgängers waren mitten durch den Kugelregen unverwandt auf ihn gerichtet. Jetzt bewegte es die Fahne, es schien ihm ein Zeichen geben zu wollen, immer deutlicher und dringender ihn zu sich hinaufwinkend. (SD:40-41)

(省略) 伯爵はそこに自分自身の姿を見出して、冷水をあびたようにぞっとした。それは、彼の白い騎兵マントにすっぽりと身をつつみ、顔半分は彼の帽子のゆらゆらする羽飾りにおおわれた彼自身であった。このひっそりとした姿に、今、すべての眼差とすべての銃口が集まっていた、だが、伯爵の髪の毛が逆立つようだった。というのは、この恐ろしいうり二つの生霊が、ふりそそぐ弾丸の雨のなかで、双の瞳をひしと彼に向けていたからである。今や旗がうち振られていたが、それは、ますますはっきりと、ますます懸命に、彼を招きよせようとする合図のように思われた。(217-218)

以上のように hinauf の全 3 例は風景描写に該当せず、方向の起点側への Hier/Origo の導入については、例(42)と例(43)は可能であるが、例(41)は Hier/Origo の移動であるため難しい。

4.3.11. hinaus

hinaus の全 18 例はいずれも風景描写には該当しない。そのうち 8 例は明らかに移動方向を表すが、他の 10 例はむしろ外へ向けられる動作の方向を表す。

移動方向を表す 8 例に関する Hier/Origo の導入には、次のような特徴が見られる。

まず例(44)～(47)の 4 例については、hinaus の示す方向の起点側に存在する登場人物に問題なく Hier/Origo を導入することができる。例(44)の hinaus は登場人物 er がその前の文脈に出てくる Jägerhaus「猟師小屋」から出る移動方向を表す。そこには Waldwärter「森番」が居合わせており、さらにこの移動は Waldwärterに見られたものとして描写されているため、Hier/Origo はこの Waldwärter に問題なく導入される。例(45)は Nonnenkloster「尼僧院」にいる Pächter「借地人」が訪ねてきた Graf「伯爵」にそれまでの経緯を話して聞かせた内容の一部である。この hinaus は Nonnenkloster から出る方向を表すが、方向の起点である Nonnenkloster には話し手 Pächter と聞き手 Graf がともに居合わせており、Hier/Origo は方向の起点に居合わせるこれらの人物に問題なく導入することができる。例(46)の hinaus は Nicolo (と早馬) が城内から外へ走り去っていく方向を表すが、その方向の起点側には Graf が位置しており、ここに Hier/Origo を導入することができる。例(47)は er が彼の馬を野に放す場面で、この場面では hinaus が表す馬の移動方向の起点側に位置する er が Hier/Origo を導入する対象となる。

(44) Mit diesen Worten piff er dem Hunde und schritt wieder in den Wald hinaus, wo ihn der Waldwärter bei dem wirren Wetterleuchten bald aus den Augen verloren hatte. (SD:31)

言い終わると口笛を吹いて犬を呼び、彼は森へ帰っていった。入り乱れる稲妻を受けて行く彼の姿は、森番の前からじきに見えなくなってしまった。(207)

(45) Weiter erfuhr nun der Graf noch, wie ein Pariser Kommissär das alles so rasch und klug verordnet. Die Nonnen sollten nun in weltlichen Kleidern hinaus in die Städte, heiraten und nützlich sein;[...] (SD:35)

さらに伯爵は、巴里の人民委員がすべてをいかにすばやくぬけめなく片付けてしまったかを知った。修道女たちは今や僧服を脱ぎ、街に出て結婚し、有用な人間にならねばならぬと命令されたのだ。(省略) (212)

(46) Dann sah man sie in den offenen Stall treten, der Graf half selbst eilig den schnellsten Läufer satteln, und gleich darauf sprengte Nicolo quer über den Schlosshof, dass die Funken stoben, durchs Tor in die Nacht hinaus. (SD:38)

やがて二人は厩に入ってゆき、伯爵は手を貸して、すばやく一番の駿馬に鞍をつけさせた。まもなくニコロを乗せた早馬が、ひづめに火花を散らして中庭を横ぎり、城門から夜の闇へと駆け去ったのだった。(215)

(47) Dann aber ließ er mit traurigem Herzen sein Pferd frei in die Nacht hinauslaufen, segnete noch einmal die schöne Heimatsgegend und wandte sich rasch nach dem Schloss zurück, um seinen bedrängten Kameraden beizustehen;[...] (SD: 43)

それからニコロは悲痛な思いで伯爵の馬を夜の野に放し、もう一度美しい故郷の地に別れを告げると、苦戦に陥っている城の仲間の所へ急ぎもどって行った。(省略) (220)

それに対して移動方向を表す他の4例では、Hier/Origoはhinausが示す移動方向へ移行するため、方向の起点側に導入されえない。例(48)の会話文におけるhinausは、伯爵に送り出される話し手Schlosswart「城番」の移動方向を表す。この話し手の移動に伴い、場面は探し出された人物sieの描写に移行することから、Hier/Origoは起点に留まるのではなく、hinausの示す方向へ移行していることがわかる。例(49)のhinausは登場人物erによる舞踏会会場から屋外への移動方向を表す。方向の起点側である屋内には確かに舞踏会に参加する人物が存在するが、移動に伴い場面描写も屋外へ移行することから、hinausはHier/Origoの移動方向であることがわかる。このようなHier/Origoがhinausの示す方向へ移動するパターンは、例(50)、(51)にも当てはまる。例(50)では登場人物erの移動と共に場面も外に移行し、例(51)では人物erによる移動により、場面はGartensaal「庭園向きの広間」から屋外のGarten「庭園」へ移行する。

(48) „Wie sollt’ er’s ahnen!“ fuhr der Schlosswart fort; „[...] – er wusste nichts davon bis heute Abend. Da schickt’ er mich hinaus, sie aufzusuchen; sie aber hatte sich dem Tode schon geweiht, [...] (SD:47)

「伯爵はゆめにも知らなかったのだ」城番は続けた。「(中略) –伯爵は何も知らなかったのだ。今日の夕方はじめでそれを知ると、ただちに伯爵はわしに命じてあの子を探させた。だがそのとき、あの子はもう、自分を死の手に委ねていた。(省略) (225)

(49) In seinen Mantel gehüllt, ohne den Wagen abzuwarten, stürzte er sich in die scharfe Winternacht hinaus. Da freute er sich, wie draußen fern und nah die Turmuhren verworren zusammenklangen im Wind, und die Wolken über die Stadt flogen und der Sturm sein Reiselied pfiff, lustig die Schneeflocken durcheinanderwirbelnd;[...] (SD:21-22)

マントをはおり、馬車を待とうともせず、彼は酷寒の冬の夜へと走り出た。外はすばらしかった。遠近の塔の時計が、風のなかで入り乱れて時を告げ、上空には雲が飛ぶように流れ、嵐が舞い下りる雪片を陽気に吹き散らし渦巻かせながら、ひゅうひゅうと旅の歌をうたっていた。(省略) (197)

(50) So hieb er sich durch die offene Tür glücklich ins Freie hinaus, keiner wagte ihm aufs Feld zu folgen, wo sie in den schwankenden Schatten der Bäume einen heimlichen Hinterhalt besorgten. (SD:42-43)

こうして伯爵はあいていた潜戸を通して、無事に外へ逃れることができたのである。木々のゆらめく影にまぎれてひそかに待ち伏せされることを恐れたか、彼らは誰ひとり追ってこようとはしなかった。(219-220)

(51) So war er in den Gartensaal gekommen. Die Tür stand offen, er trat in den Garten hinaus. Da schauerte ihn in der plötzlichen Kühle. (SD:44)

こうしてレナルトは庭むきの広間に下り、あけたままになっていた戸を通して、庭園に歩み出た。突然の冷気に彼は思わず身ぶるいした。(221)

動作の方向を表す 10 例においては動作の性質上、方向の起点側に必ず動作を行う人物が存在する。しかしその動作主は必ずしも Hier/Origo とは限らない。

まず例(52)の hinaus は登場人物 Gabriele がハンカチを窓の外へ出す方向を表すが、この動作の方向の起点には必然的にその動作主である Gabriele が存在する。特に場面の移動は無いことから、Hier/Origo は Gabriele に導入することができる。同様に例(53)のピストルを屋内から外へ撃ちはなつ動作に関しても、動作方向の起点側で動作を行う人物 er が存在し、Hier/Origo を導入する対象となる。それに対して例(54)では、hinaus の示す身を乗り出す方向、つまり窓の外の世界に向かって場面描写が移行することから、動作方向の起点側に Hier/Origo を導入することはできない。部屋から押し出す例(55)も同様に、動作主 er は方向の起点側にあるものの、押し出される人物 Jäger ないし Renald の移動に伴い、場面も部屋の外の階段へ移行している。

(52) „Freilich“— sagte Gabriele mutwillig und setzte sich ins Fenster, und wehte mit ihrem weißen Schnupftuch hinaus—[...] (SD:13)

「そうよ—ガブリエレはいたずらっぽく言うと、窓に座って身をのり出し、自分の白いハンカチをひらひらと風になびかせた—(省略) (187)

(53) „Der Rasende!“, sagte er, und befahl für jeden Fall die Zugbrücke aufzuziehen, dann öffnete er rasch das Fenster, und schoss ein Pistol als Antwort in die Luft hinaus. (SD:37)

「きちがい奴！」罵りながら彼は、ともかくも城のはね橋をひき上げておくよう命じ、すばやく窓をあけて、返答のピストルを空へ撃ちはなった。(214)

(54) Gabriele aber, als sie allein war, riss noch rasch in ihrer Zelle das Fenster auf. [...] Ihr Herz klopfte heftig, sie legte sich hinaus, so weit sie nur konnte, da glaubte sie draußen den Fluß wieder aufrauschen zu hören, darauf schallte Ruderschlag unten im Grunde, [...] (SD:13-14)

しかしガブリエレは、ひとりになるやいなや、急いで部屋の窓をあけはなった。(中略) 胸をどきどきさせて、彼女は、せいっぱい窓から身をのり出してみた。ふたたび流れのざわめきが聞こえ、谷底の方から櫂のきしむ音が聞こえたような気がした。(省略) (188)

(55) Hiermit schleuderte er den Zettel dem Jäger ins Gesicht, und schob ihn selber zum Saal hinaus, die eichene Tür hinter ihm zuwerfend, dass es durchs ganze Haus öde erschallte.

Renald stand, wild um sich blickend, auf der stillen Treppe. (SD:24)

彼は紙切れを獵師の顔にたたきつけると、腕をつかんで広間から押し出した。後で力まかせにしめられた櫂の扉が、館中にその荒寥とした音をひびかせた。

レナルトはしんとした階段にたたずんで、狂おしくあたりを見回した。(199-200)

その他 6 例は知覚動作を表し, hinaus の示す方向の起点には常に知覚主体が存在する。例(56)と(57)では, この起点側の知覚動作の動作主に Hier/Origo の導入が認められるが, 例(58)~(61)では, 知覚動作の動作主と Hier/Origo との間にずれが見られる。

例(56)の hinaus は登場人物 er (=Nicolo) が Dorfkirche「古い村の聖堂」の中から外の様子をうかがう知覚行為の方向を表す。この場面は知覚行為の主体で方向の起点に位置する er を中心に描写されているため, 方向の起点に Hier/Origo を導入することができる。例(57)においても, hinaus の示す方向へ向けられる知覚行為の主体 Gabriele は方向の起点であると同時に, 会話文により描写される場面の中心として, Hier/Origo が導入される。例(57)は例(39)で取り上げた Hinabsteigen を含むが, この hinab は Gabriele 自身の移動方向を表すため, Hier/Origo は hinab の示す方向の起点側には存在しえない。これらの hin-の事例は, Hier/Origo の方向の起点側への固定と移動が極めて劇的に転換することを如実に反映している。

一方, 例(58)の見る動作主体は Renate であるが, それまでの場面は Gabriele を中心に描かれている。例(59)の hinaussehen は man を主語とする一般的な知覚行為を表すが, 場面の中心人物は Graf である。例(60)は先述の herein の例(25)を含む。この hinaus schauen という知覚行為の主体は Jäger で, やはり中心的人物の Graf とは一致しない。これらは知覚行為の主体と場面の中心人物が異なるが, いずれも hinaus の方向の起点側に位置し, ここに Hier/Origo を導入することができる。それに対して例(61)の hinaus は庵室から外へを見る動作主は Pferd「馬」であるが, この知覚動作は Graf によって眺められた風景の一部として描写されている。場面描写の中心と見なされる Graf のいる外の領域と方向の起点側の Pferd のいる庵室内は明らかに対立するため, Hier/Origo の方向の起点側への導入は極めて難しい。

(56) Er lauschte vorsichtig in die Nacht hinaus, es war alles still, nur die Linden säuselten im Wind, vom Schlossgarten hörte er die Nachtigallen schlagen, als ob sie im Traume schluchzten. (SD: 43)

ニコロはふりかえり, 用心深く闇を窺った。あたりはしんとしている。ただ数本の菩提樹がさやさやと風に鳴り, 城の庭園からは, 夢のなかですすり泣くような小夜啼鳥の声が聞こえてきた。
(220)

(57)[≥(39)] Aber Gabriele hörte nicht darauf, zögernd und im Hinabsteigen noch immer zwischen den Zweigen hinausschauend, sagte sie wieder: „Es bewegt sich drüben am Saum des Waldes; [...]“ (SD:16)

ガブリエレは言うことを聞かず, ぐずぐずと木を下りながら, まだ枝ごしに向うをのぞいて, また言った。「あそこの森のはずれで何か動いているわ。(省略)」 (191)

(58) Die Heimchen zirpten unten auf den frischgemähten Wiesen, überm Walde blitzte es manchmal aus weiter Ferne. „Da lässt mein Liebster mich grüßen“, dachte Gabriele bei sich. – Aber Renate blickte verwundert hinaus; sie war lange nicht wach gewesen um diese Zeit. (SD:10)

刈り取られたばかりの下の草地では蟋蟀が鳴き, 森の上空にはいくたびか遠い稲妻が走った。あれはあの人私に送ってくれる挨拶なんだわ, とガブリエレはひとり思うのだった。—だがこの時刻に起きていることの久しくなかったレナーテは, 驚いて外をながめながら言った。(184)

(59) Die Diener starrten ihn verwundert an, er aber hatte unterdes einen rüstigen Jäger auf die Zinne gestellt, wo man am weitesten ins Land hinaussehen konnte. (SD:38)

家来たちはあつけにとられて伯爵を凝視したが、彼はその間に、屈強な獵師を、一番見晴らしのきく高樓にのぼらせた。(215)

(60)[≥(25)] Aber der Graf, die Leiter hinanfliegend, war schon selber droben und riss dem Zielenden heftig das Gewehr aus der Hand. Der Jäger sah ihn erstaunt an. „Ich kann auch nichts mehr sehen“, sagte er dann halb unwillig und warf sich nun auf die Mauer nieder, über den Rand hinausschauend: „Wahrhaftig, dort an der Gartenecke ist noch ein Fenster offen, der Wind klappt mit den Laden, dort ist's hereingehuscht.“ (SD:39)

だがそのとき、はしごを駆け上がった伯爵が、いきなり彼の手から銃をもぎとったので、獵師はあつけにとられて彼を見つめた。「もう何も見えませんよ」獵師は少し気を悪くして言ったが、今度は城壁の上に身を伏せ、そこからのり出すようにして外を見ると、叫んだ。「なるほど、あの庭の隅の窓がひとつあいたままだ。風で鎧戸がばたばたしているぞ。あそこにもぐりこんだんだな」(216)

(61) Der überraschte Graf blickte schweigend umher, jetzt bemerkte er erst, wie die zerbrochenen Fenster im Winde klappten; aus einer Zelle unten sah ein Pferd schläfrig ins Grün hinaus, die Ziegen des Pächters weideten unter umgeworfenen Kreuzen auf dem Kirchhof, niemand wagte es, sie zu vertreiben; [...]

(SD:35-36)

思いがけぬ話に驚いて、伯爵は黙ってあたりを見回した。今はじめて彼は、壊れた窓が風にかたかたと音をたてているのに気づいた。下の庵室からは一頭の馬が眠たげに首をつき出し、外の草地をながめているし、借地人の山羊は、墓地のひき倒された十字架の下で草を食べていたが、追い払おうとする者は誰もなかった。(212)

以上のように hinaus の全 18 例のうち 11 例（移動方向を表す 4 例、動作の方向を表す 7 例）については、方向の起点と Hier/Origo との間に高い整合性が認められるが、その他の 7 例における整合性は極めて低い。

参考文献

- Alewyn, Richard (1957/1974):** Eine Landschaft Eichendorffs. In: Alewyn, Richard: Probleme und Gestalten: Essays, Insel Verlag, Frankfurt am Main 1974, 203-231. (Erstdruck: Euphorion 51, 1957, 42-60) (渡辺洋子訳「アイヒェンドルフの風景」『ドイツ・ロマン派論考』国書刊行会, 1984, 303-340.)
- Ehlich, Konrad (1985):** Literarische Landschaft und deiktische Prozedur: Eichendorff. In: Schweizer, Harro (Hg.): Sprache und Raum. Psychologische und linguistische Aspekte der Aneignung und Verarbeitung von Räumlichkeit. Ein Arbeitsbuch für das Lehren von Forschung, Metzler, Stuttgart, 246-261.

例文出典

Eichendorff, Joseph von: Das Schloss Dürande, Philipp Recalm jun. Verlag, Stuttgart, 2011. [略号 SD] (渡辺洋子訳「デュランデ城」前田道介編『アイヒェンドルフ（ドイツ・ロマン派全集第六巻）』国書刊行会, 1983, 175-228.)